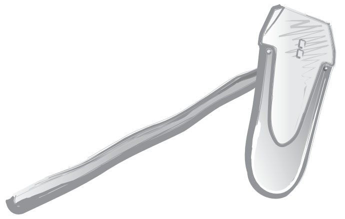
暮らしのぞき箱

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

春分（しゅんぶん）

三月二十日

〜第三十一号〜



御園祭

畑に人の姿をよく見かけるようになりました。種蒔きや植え付けをする前に田畑の土をすき返し、柔らかくすることを「春耕（しゅんこう）」という季語で呼びますが、農耕を始められる喜びに充ちた明るい響きがあります。

神さまに供える野菜と果物を栽培する畑、神宮御園（みその）では毎年、耕作始めにあたる御園祭があります。二見町溝口の神宮御園を訪れると、畑の土の美しいこと。石や土の塊もなく、さらさらとした柔らかそうな土なのです。

野菜を育てるには土壌作りが大切というのはよく聞きますが、土にはおびただしい数の微生物が生息しています。その数は、スプーン一さじで実に一億以上とか。善玉、悪玉、活発な菌、休眠している菌などで、土の中はまるで小宇宙のようです。そして星の数ほどの微生物の中で、ある菌だけが片寄ると病気が発生するというのです。悪玉だから発病するのではなく、一つの菌だけが異常に多くなると野菜が発病。さまざまな種類の菌が片寄らず、たくさん存在するのが生態系に良いというのです。土の中だけでなく、土の上の世界にも通じるような話ですね。

神宮御園は毎日、お祭りのための野菜を出荷しなければなりません。明治三十一年に開墾され、野菜類の栽培が始まりましたから、連作障害が出やすいですし、近頃は夏の暑さが長引き、虫の害が厳しいとのことです。

御園祭では、神宮御園の作長（さくちょう）が畑に向かって、鍬（くわ）をふり下ろす仕草を繰り返す鍬入れを行います。今日は春分の日。今年も順調に野菜が育ちますように、病気になりませんように。春の土の微生物たちもうごめいたような、そんな春の日です。

文　千種清美

伊勢 内宮前 おかげ横丁